



# 建交労



2020年10月13日  
建交労神奈川県南支部

2020年秋季年末闘争No.08

2019年度推進ニュース㊸通算194号

発行責任者 佐藤 章

## 神奈川県本部は横浜開港記念会館にて 第22回定期大会開催・新年度方針決定

建交労神奈川県本部は10月11日に第22回定期大会を横浜開港記念会館で開催し代議員定23人中19人、役員11人中10人が参加して成功させました。例年の大会では来賓や傍聴参加者を含め40人～50人の参加で開催していますが、今年は新型コロナウイルス感染防止のために来賓・傍聴参加は行なわず多少寂しい感が否めない大会となりました。

大会は大島副委員長・神奈川県南支部書記長による開会挨拶（新型コロナウイルスによる国民生活への影響がひろがる



開会の挨拶をする大島副委員長



なかで、安部政権は労働者・国民に多大な犠牲を強いたまま病気を理由に辞任した。代わって政権に就いた菅政権は安部政治を継承する）ではじまり、議長には神奈川県南支部の佐藤委員長が選出され議事が進行されました。

伊藤委員長の主催者あいさつは情勢に関わって、新型コロナによる影響が続くなかで運動の前進が求められているが、菅首相の基本スタンスである“自助・共助・公助”は国民に

昨年につき議長を務める佐藤さん

に対する負担・責任と犠牲転嫁を第一義とする考え方であり、大企業や富裕層が潤えばやがて労働者・国民にも恩恵があるという“トリクル・ダウン”いわゆる新自由主義の思想だ。しかし、新自由主義の下で起きたことは貧困と格差社会の拡大であり、コロナ禍への対応でも新自由主義の矛盾は明らかとなっていると指摘し菅首相の危険性は学術会議が推薦した会員の任命拒否という強権



主催者の挨拶をする伊藤委員長



大会諸議案を提案する高橋書記長

的な形で顕在化していること  
を取り上げて菅政権に対するたたかひの重要性を強調しました。一方、運動面では川崎学童保育指導員支部による川崎市からの補助金獲得、ダンプ支部の就労闘争前進、軽貨物の組織化、三昭運輸分会争議前進などの成果に加え、とりわけ組織拡大では昨年大会時の組織実勢301名を大きく上回る380名で今年の大会を迎えたことを評価しました。

つづいて議案提案を行った高橋書記長は、2019年度の組織

拡大と要求闘争の成果・到達点について伊藤委員長が挨拶で触れた内容を詳細に報告するとともに、2020年度の運動方針と財政報告・予算案などを報告・提案しました。

休憩後に全体討論に入り、発言のトップには神奈川県南支部の須田執行委員が立ち「宣伝行動をはじめ団体交渉などで新型コロナの影響を受けたこと、一方で自らの分会が組合員を拡大し神奈川県南支部でも新結成の成果を上げた



こと」などを報告しました。発言をする県南支部の須田代議員

その後、神奈川ダンプ支部、横浜事業団支部、川崎学童保育指導員支部、鉄道神奈川地方本部、ダンプ支部マイシン分会のなかまが発言を行って、1年間のたたかひの成果や課題・今後の運動への決意などが語られました。

発言の最後には神奈川県南支部三昭運輸分会の北川書記長が登壇し争議への支援を訴えて全体討論を終えました。



争議の支援を訴える北川代議員

その後、高橋書記長が討論のまとめを行って採決に入り、すべての議案が満場一致で採択され、つづいて行われた役員選挙とスト権批准投票もすべて信任され、大会宣言を採択し鉄道本部選出の小野執行委員が閉会挨拶を行って、ダンプ支部選出の那須原執行委員の発声で団結ガンバロウを唱和して閉会しました。

## 三昭運輸分会の県労働委員会でのたたかひは10月12日に行った第5回審問で結審しました

2017年12月に神奈川県労働委員会に不当労働行為の救済申立を行った三昭運輸分会のたたかひは、間もなく3年を迎える10月12日の第5回審問でようやく結審となりました。

この日は、16:00からの審問に先立って、伊藤県本部委員長、大島県南支部書記長、赤羽組合員と当該の清野分会長、北川分会書記長の5名が15:00に県労委事務局を訪れて第4回目となる「早期救済命令を求める要請書」を提出（今回は団体署名56



署名を手渡す伊藤県本部委員長



県労委の最終審問に参加した仲間

通と個人署名1383筆）して会社の不当労働行為を明確に認定する公正な命令を求める要請を行いました。この日の審問には、署名提出を行った5名に加えて神奈川労連の住谷議長、川崎労連の大貫副議長、湘南労連の塚本事務局長、建交労神田支部の石塚書記長、県南支部の佐藤委員長、内外液輸分会の本間さん、イワサワ分会の宇田川さん、合同分会の益山さんが参加しました。

審問では、労働委員会が「命令の言渡し時期は事務局から連絡する」と説明したのに対し会社側弁護士がおおよその時期を尋ねたところ公益委員からは「年内に出るかも」との返事がありました。むろん年明けの可能性も充分あります。

いずれにしても完全勝利命令を勝ち取るために県南支部の全分会は本気で署名の取り組みを徹底してください。